

SDGs（エスディージーズ）に関する市の考え方について



- SDGsとは、2015年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択された、2030年を期限とする国際社会全体の開発目標で、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むこととされている。
- SDGsには、17のゴール（目標）と、その下位目標である169のターゲットが設定されており、さらにその下には、目標達成に向けた進捗状況を測るための約230のインディケータ（指標）が提示されている。
- SDGsには、以下の5つの特徴がある。
 - ① 普遍性：先進国を含め、全ての国が行動
 - ② 包摂性：人間の安全保障の理念を反映し、「誰一人取り残さない」
 - ③ 参画型：全てのステークホルダーが役割を
 - ④ 統合性：社会・経済・環境に統合的に取り組む
 - ⑤ 透明性：定期的にフォローアップ

行政	<ul style="list-style-type: none"> ● 「第2期館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」や「後期基本計画」において、SDGsの理念を反映させ、総合戦略や基本計画に位置付ける各種施策とSDGsの各ゴール（目標）を関連付けることにより、双方にどのような関連・繋がりがあるのかを確認・整理するとともに、各種施策の推進がSDGsの目標達成につなげられるようにしていきたい。 ● 自治体によるSDGsは、人口減少や地域経済縮小の克服、将来にわたる成長力の確保を目指す地方創生の趣旨に合致しており、SDGsの推進によって、人々が安心して暮らせるような、持続可能なまちづくりと地域の活性化を実現することができれば、まさに、地方創生の目標達成に資するものであると考えている。
----	---

	<ul style="list-style-type: none"> ●市では、SDGsの達成に向けた取組と、より一層の地方創生につなげることを目的に、多様な関係者とのパートナーシップを深める官民連携の場として、内閣府が設置した「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」に令和元年6月から参画しているところである。
企 業	<ul style="list-style-type: none"> ●平成30年12月にSDGs推進本部が発表した「SDGsアクションプラン2019」において、企業が長期的な視点を持ち、経営戦略にSDGsを取り込む「SDGs経営」というキーワードが盛り込まれ、また、令和元年5月には、経済産業省が、企業がいかにしてSDGs経営に取り組んでいくか、投資家はどのような観点で企業の取組を評価するのか等を整理した「SDGs経営ガイド」を取りまとめている。この中で、SDGsの実現のためには、企業の参加は必要不可欠であり、SDGsに取り組むことは企業価値を高め、社会課題の解決に貢献し、逆に、取り組まないことは企業の持続可能性を揺るがすリスクをもたらす、企業価値を下げる旨の指摘がなされている。 ●館山青年会議所において、日本青年会議所公認のSDGsアンバサダーの方を講師とするSDGsセミナーを開催するなど、SDGsを社会改善目標としてだけでなく、ビジネスチャンスとして捉え、企業経営の参考とする取組が既に展開されており、また、市内の多くの企業が中小企業であることから、今後、館山商工会議所などの各種経済団体や企業、館山青年会議所などのまちづくり団体等との連携を深めながら、ともにSDGsを推進していきたいと考えている。
市 民	<ul style="list-style-type: none"> ●将来にわたって持続可能な社会を実現するため、「誰一人取り残さない」というSDGsの崇高な理念を市民の皆様幅広く知ってもらい、その後の実践につなげていくことが重要であると考えている。 ●市では、その旗振り役を務めることが、自治体の果たすべき大きな役割の一つであると認識しており、「後期基本計画」の策定に当たり、今年度実施する予定の市民意識調査等の機会を捉えて、市民のSDGsに対する認知度や関心度について把握し、今後の取組の方向性を検討していきたいと考えている。 ●「第2期館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」や「後期基本計画」の概要等について、広報紙やホームページ等に掲載する際に、SDGsを推進する意義や館山市の施策との関連性について整理するなど、SDGsの周知・啓発に努めていきたいと考えている。